



花粉症のおはなし

こんにちは。院長の梅津由子です。

今年は数十年ぶりという寒波の襲来^{しゅうらい}などもあり、厳しい冬となっています。世界各地から強い寒波による被害が伝えられ、ついこの間は草津白根山の噴火があり、地球規模の異変に不安を感じる今日この頃です。加えてインフルエンザもA型とB型がすでに混在して流行するという、例年とは異なる傾向があるようです。皆様、いかがお過ごしでしょうか？

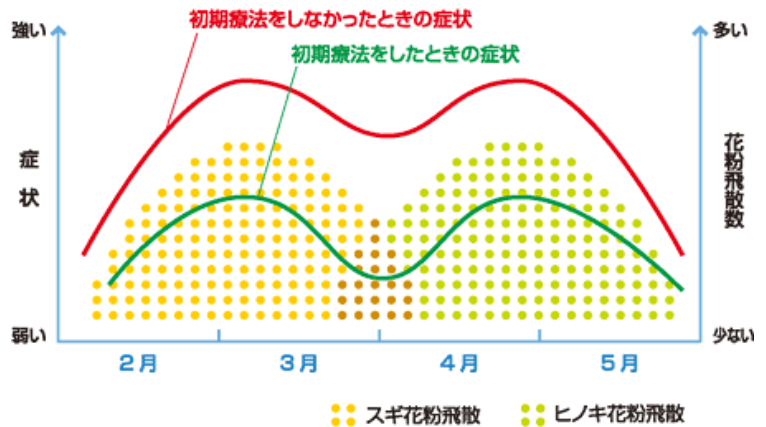


さて、まだまだ冬真っ盛りの米沢ですが、必ず雪は解け春がやってきます。待ち遠しい春の訪れではありますが、花粉症の方にとっては少し憂鬱^{ゆううつ}な季節でもあります。今回は花粉症の「初期療法^{しよきりょうほう}」についてのお話です。

今や4人に1人は花粉症^{かふんしょう}。スギやヒノキなどの花粉によって目のかゆみ、くしゃみ、鼻水、鼻づまりなどのアレルギー症状が出ます。一般的に、スギ花粉は、東北地方では3月上旬から飛び始めます。今年の花の飛散は例年よりやや多めで、少なかった去年に比べてかなり多いという予想です。

眼科で行われるアレルギー性結膜炎^{せいけつまくえん}の治療の基本は、薬物療法^{やくぶつりょうほう}となります。薬物療法^{りょうほう}の目的は、日常生活に支障がないように、かゆみの症状を軽くすることが中心となります。治療には、抗アレルギー点眼薬^{こうアレルギー点眼薬}（抗ヒスタミン薬、ケミカルメディエータ遊離抑制薬^{ゆうりよくせいやく}）が、主に使われます。重症^{じゆうしょう}の場合には、ステロイド点眼薬や免疫抑制点眼薬^{めんえきよくせい}などを使用する場合があります。症状が出る前の、花粉飛散時期の約2週間前から、または症状が少しでもあらわれたら、抗アレルギー点眼薬による治療を始める方法「初期療法^{しよきりょうほう}」で、花粉飛散ピーク時の症状が軽くなります。毎年花粉症がひどい場合は、症状があらわれる前に眼科を受診することをおすすめします。バレンタインデーのチョコレートの話題が一段落したら点眼を始めてはどうでしょう。また、抗アレルギー点眼薬^{こうアレルギー点眼薬}は比較的副作用の少ない薬です。使用中は勝手に中断することなく、指示に従って使うことが大切です。

初期療法をしたときとしなかったときの症状の違い



目玉いきいきライフ

目玉いきいきライフのコーナーでは、
目の健康に関する情報や、
耳より情報（眼科だけどっ）をお届けします。

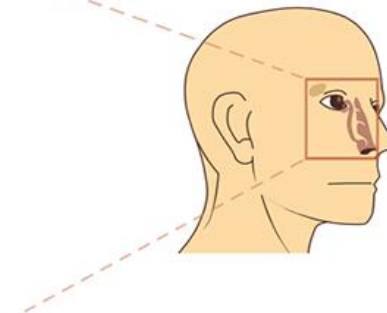
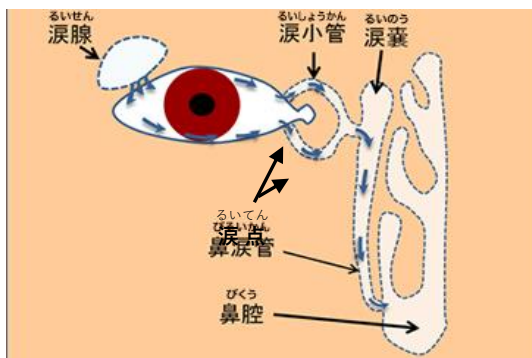


乳幼児の目のトラブル



【赤ちゃんの鼻涙管閉塞】

涙は涙腺から分泌され目の表面をうるおしています。分泌された涙は一部蒸発しますが、多くは目頭にある涙点という小さな穴から吸い込まれ、鼻涙管という涙の流れ道を通って鼻の奥に流れていきます。鼻涙管が詰まっていると、生まれたばかりの赤ちゃんでも、「涙でうるうるしている」「メヤニが多い」などの症状があります。月齢によっては、抗生物質の点眼と、涙嚢部（鼻の付け根のあたり）のマッサージで治



療します。それでも改善しない場合は、詰まりが開通するような処置が必要になる場合もあります。

【さかさまつげ】

小さいお子さんのまぶたの周りには脂肪が多く、上下ともまつ毛が内側に入り込みやすくなっています。まつ毛が内側に入ると、目に当たり、傷がつくこともあります。メヤニがたくさん出たり、頻繁に目をこすったりするような症状が出てきたら、眼科を受診しましょう。

【目をぶつけた、ものが入った】

目をぶついたり、ものが入ったりして、角膜に傷がつくと、視力に影響することがあります。受傷したら速やかに受診しましょう。

※小さいお子さんは、自分の症状を正確に訴えることができません。おうちの方が、常日頃良く観察して、いつもと違うかな？大丈夫かな？と思ったら、受診していただければと思います。また、付き添いの方は、医師や看護師になるべく詳しい経過を伝えていただくことで診療がスムーズに行えますので、ご協力をお願いします。



疲れたときにはチョコレート
目玉いきいきライフ！

編集後記

小さいお子さん向けの絵本入荷しました。40年以上前からある名作『しろくまちゃんのほっとけーき』、とにかく笑う！『ぜったいにおしちゃダメ？』ほかにも楽しい絵本がたくさんあるので、待ち時間に読んでみて下さい。

ビビ・プッチ・まめちよ